みんなで生き方を考えよう！

文責：道徳主任

道 徳 教 育 だ よ り　7月号

上赤　義人

いのちを考える～この夏に～

毎年、夏がやってくる。そして、毎年、８月６日、９日、１５日はやってくる。毎年、いのちについて考えさせられる日である。ましてや、今年は、東日本大震災もあり、さらに、考えさせられる。

いのちとは何なのか。いま、自分がここに息づいていることの偶然性。そして、一度しか抱きしめることのできないという有限性。さらに祖先から受け継ぎ、子孫へ受け渡していく連続性。

いのちとは何なのだろう。考えてみませんか。

偶然性～いまここにいる不思議～

私自身の、いまここにいることの不思議。こうやって生きていること存在していることが何か不思議に思えてくる。考えれば考えるほど大切にしたいと思う、このいのち。

有限性～いつか終わりがあること～

生きていることを実感し、喜びたい。そしてかけがいのない私の人生を、いのちをもっともっと輝かせていきたい。

連続性～ずっとつながっていること～

このいのちは私のもの。だれのものでもない。でも、これは私が受け継いだもの。このいのちは私のものだけど、私だけのものではない。

学校では、道徳の時間はもとより、様々な教育活動の場面において、いのちについて学ぶことを大切にしています。夏休みは、学校を離れ家庭で過ごす時間が多くなるはずです。この夏に、いのちについてご家庭で、じっくり、ゆっくりと話をしてみてください。子どもたちは、子どもたちなりに、いのちについてしっかりと考えているはずですから…。

ディズニーランドと掃除

ディズニーランドで、お客様（ゲスト）に夢と感動を与えるために一番必要なのは、掃除だそうです。ゴミが投げ捨てられたとしても、１５分以内には必ずカストーディアルが掃除するシステムになっているのです。「ナイトカストーディアル」と呼ばれている「夜のそうじ係」。具体的なそうじの目標は、『赤ちゃんがハイハイしても大丈夫なくらい、キレイにする』です。

東京ディズニーランドの役員である北村さんは、従業員とコミュニケーションをとるために、月に２・３回は、自らナイトカストーディアルとして深夜の掃除をするそうです。ある夜、北村さんが「アドベンチャーランド」を掃除し、食堂の厨房を洗い終えた午前３時頃、トゥモローランドへ移動したときのことである。そこには、大きなトイレがあり、若いナイトカストーディアルが掃除をしているのが見えました。しかし、彼が一人で一生懸命ゴシゴシと掃除していのに、そのトイレから話し声が聞こえてきます。　北村さんが不思議に思って、近づいてよく聞いてみると、何と彼は便器に話しかけながら掃除をやっていたのです。これには、北村さんはビックリしました。そして、なぜ便器に話しかけているのかを彼に尋ねました。彼はぽつりぽつりと話しはじめました。

「僕は、自分で希望して、この職業を選んだけれど、この仕事が嫌で嫌でしかたがありませんでした。夜はやっぱり寂しいし、こんなに広いところを少ない人数でピカピカにするのはつらい。どうしてこんな事をやっているのか、情けなくなってきたんです。何度もやめようと思った。でも、本場アメリカのディズニーランドへ行って、考え方が変わったんです。なぜなら、むこうのナイトカストーディアルは『こんな素晴らしい仕事をどうして嫌がるんだ。僕は全然さびしくないよ。なぜだか教えてやろうか』と言って、トイレに連れて行ってくれたんです。

それで『これはみんな僕の友達だよ、名前もあるんだよ』と言って、ずらっと並んだ便器を『トム、ジャック、スティーブ・・・』と順番に呼んで紹介してくれました。『僕は、毎晩彼らと話しながら仕事してるんだ』というなり、彼は『トム、どうだい元気かい。そうか、今日は思いきり汚されたからキレイにしてくれって？よし、思いっきりキレイにしてあげるよ』なんて言いながら、掃除していくんです。『こうしてキレイにしてあげると、便器も喜ぶし、お客さんも喜ぶんだ。そして、ぼくも楽しいよ』

これはスゴイ。僕は思わず泣けてきました。よし、僕もこれでいこう。そう思って、日本に帰ってきてから頑張っているんです。」かれは、こんな話しをしてくれました。

北村さんは、心がホッと暖まるような感動を覚えたそうです。

「掃除は自分と向き合う創目の時間。自己を見つめ直し、自ら考えて行動する力を養うことができる時間」といわれます。是非、この夏休みに、ご家庭でも子どもたちに掃除をする機会を積極的につくってみてください。